

和歌山県白浜町（国内8例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生施設に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和4年11月11日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 施設の周辺環境・施設概況

- ① 当該施設は、多様な動物種を展示用として飼養する観光施設で、利用者は施設内を徒歩で移動して動物を観察できるようになっていた。
- ② 施設の周囲は、山林に囲まれていた。
- ③ 施設から1.2 kmの距離にあるため池では、マガモ42羽、ヒドリガモ37羽、カルガモ33羽などカモ類が約140羽確認された。
- ④ あひるは通常、ふれあい広場内収容舎で飼養されており、9時30分から15時30分頃までふれあい広場で展示されていた。高病原性鳥インフルエンザの国内発生を受け、11月2日にがちょうとともに予防的にヤギ舎への隔離を行った（導入前に消毒を実施）。調査時、ふれあい広場収容舎内にはモモイロペリカンが隔離されていた。ふれあい広場内収容舎及びヤギ舎には屋根が付いており、鳥種ごとに部屋を分けて飼養していたが、ふれあい広場についてはフェンスで囲まれた野外であった。

2 通報までの経緯

- ① 11月9日、ヤギ舎で飼養していたあひる1羽の死亡を確認したが、死因は腸重積であり、鳥インフルエンザの検査はせずに焼却場横の冷凍庫に一時保管後、翌10日朝に火葬済み。
- ② 11月10日朝に、あひる3羽の死亡を確認。専属獣医師により鳥インフルエンザの簡易検査を行ったところ、3羽とも陽性。9時50分に家畜保健衛生所へ通報した後も、更にあひる3羽の死亡を確認（計6羽死亡）。
- ③ 11月10日に家畜保健衛生所が立入りし、死鳥計6羽と生鳥2羽の簡易検査を行ったところ、8羽とも陽性となった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該施設には、飼養管理の従業員が110名おり、あひるについては主にふれあい広場を担当する職員10名がシフト制で対応していた。専門学校の研修生が飼養管理を手伝うこともあったが、あひるの隔離以降は専門学校の研修生にはあひるの飼養管理は行わせていなかった。直近では9月24日及び11月9日にあひるの死亡が確認されていた。
- ② 飼養担当者によると、ふれあい広場を担当する職員は、鳥類、げっ歯類、特定動物、サルの管理担当者を分けていたものの、シフト制のため飼養管理は別の動物の担当者が行うことも多かったとのこと。
- ③ 飼養管理の流れは基本的に、朝に治療個体以外の個体をふれあい広場に出し、その後給餌及び清掃を行っていた。

4 施設の飼養衛生管理

- ① 当該施設によると、国内の高病原性鳥インフルエンザ発生を受け、11月2日にふれあい広場で展示されていたあひる及びがちょうをヤギ舎に隔離し、11月3日から鳥類のふれあい及び餌販売を中止したが、11月1日まではふれあい広場に解放されており、利用者が餌をやるなど触れることが可能な状態であった。ふれあい広場入口には、消毒マット及び手指消毒が設置されていた。11月4日には、全ての鳥類の屋外展示を中止し、利用者への餌販売を休止していたとのこと。
- ② 施設内に入場する車両は、施設出入口から従業員用の道路へ入る際に消毒マットによる消毒を実施していたとのこと。

- ③ 施設によると、従業員は、施設外にある事務所で手指消毒（アルコール）、施設制服への更衣、施設用白靴への履替えを行い、それぞれの動物飼養舎付近の事務所で専用長靴に履き替えていた。
- ④ ふれあい広場内収容舎及びヤギ舎の各舎入口で従業員は踏込み消毒をして入室していた。手指消毒は実施していなかった。
- ⑤ ふれあい広場内収容舎のあひるを飼養していた部屋は、外に面する部分が防鳥ネットで覆われていた。
- ⑥ ヤギ舎は網戸つきの窓がついていたが、直近ひと月は開放していないとのこと。天井はトタンになっており、トタンと壁上部の隙間には格子がついていた。ヤギ舎内のそれぞれの部屋には外に面した壁の1か所に開口部があり、格子（幅は1cm程度）がついていた。
- ⑦ 飼料業者は固定ではなく、月やロットによって契約する業者が異なるとのこと。
- ⑧ 飼養動物への給与水は水道水だった。
- ⑨ ヤギ舎への隔離中に出た糞は、餌の食べ残しの飼料とともにビニール袋に入れて回収したのち、施設敷地内で焼却処分していた。
- ⑩ 死亡した展示動物は施設内の動物病院に持ち込まれ、その近くの焼却場で処分されるとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 従業員によると、施設内では、カラス、スズメ、ヒヨドリ等の野鳥が見られるとのこと。施設の外ではネコやイタチを見かけるとのこと。調査時には、ふれあい広場周辺でハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス等を確認した。
- ② ふれあい広場にはよくカラス、カモ、サギ、スズメ、ヒヨドリ等が飛来してくるとのこと。
- ③ 従業員によると、3日ほど前（11月9日）に園内で野鳥2羽（ハト及び種不明）の死体を回収しているとのこと。
- ④ ふれあい広場内収容舎ではネズミをよく見かけることから、ネズミ対策として粘着式のネズミ捕りを設置する、排気口に網をかける等を実施しているとのこと。
- ⑤ ヤギ舎ではネズミ等の野生動物の痕跡は見られなかった。柱の一部に腐食がみられたものの、外部には通じていないようだった。
- ⑥ 餌については、施設内全体の飼料保管庫で調整したのち各飼養舎の飼料保管庫に持ち込まれ、食べやすいように細断し給餌しているとのこと。施設内全体の飼料保管庫は高床になっていた。ふれあい広場内収容舎の飼料保管庫の扉は引き戸であったが、11月2日までは開放されていたとのこと。

（以上）